テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　サブクエスト

ラノシア編

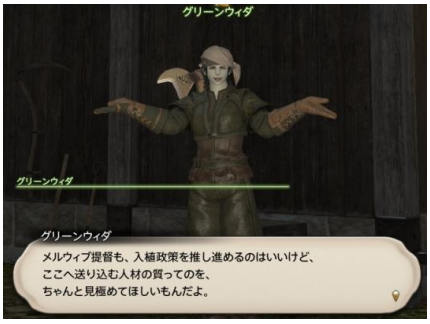
中央ラノシア

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

開拓事始め

グリーンウィダ ： ここサマーフォード庄は、メルウィブ提督の入植政策に乗っかって、お上の支援を受けながらやってるんだ。
でも、開拓の実績を出さないと、次の支援は打ち切られかねない。それなのに、海賊上がりの連中はサボってばかり。
だから、君に開拓を手伝ってもらいたいんだ。開拓予定地に転がってる、「岩」を取り除き、「廃物」を拾うだけでいいからさ。
それじゃ、まずは、この小屋の壁にたてかけてある岩を取り除くための「開拓者のシャベル」を手に入れてくれ。
よろしく頼んだぞ。

グリーンウィダ ： やや、もう終わっちまったのかい！？　さすがは冒険者だねえ。これで少しは遅れが取り戻せそうだよ。
ここの入植者が、君のような働き者ばかりだったらこんなに困らないんだけどね……。
メルウィブ提督も、入植政策を推し進めるのはいいけど、ここへ送り込む人材の質ってのを、ちゃんと見極めてほしいもんだよ。



手に届く太陽

ビルドレーグ ： やれやれ……ラノシアオレンジの収穫期だってのに、海賊上がりの連中ときたら、動こうともしないよ。
このままじゃ、実が熟しきって落ちちまう。せっかく俺たちが丹精こめて育てた作物を、売らずに腐らせるつもりかね？
悪いが「熟したラノシアオレンジ」を3個ほど収穫してきてくれ。ただ、ときどきフラワー・ヴェスパが紛れ込んでるから、
気をつけるんだよ。

ビルドレーグ ： 早いところ「熟したラノシアオレンジ」を収穫しないと、実が腐っちまうよ……。
おお、これだけあれば十分だ。ありがとうよ。おかげで、大切に育てたオレンジが腐り落ちずにすんだよ。
やれやれ……　それにしても、海賊上がりの連中は、結局、誰ひとり収穫の手伝いに来なかったのか……。
やはり無責任な海賊どもに農作業をやらせるなんて、どだい無理な話なのさ！
メルウィブ提督も、この事実に早く気づいてほしいもんだ。

行人を脅かすもの

オストフィル ： 冒険者よ、聞いてくれ！　最近、この関門を利用する通行者の中に負傷している者が、よく目に付く。
聞けば皆、ローグ川に潜むヤーゾン・フィーダーに襲われたという。対策を講じたいが、我らはこの場の警備で精いっぱい。
そこで、君の力を借してほしい。ローグ川で「ヤーゾンの巣」3個をほじくりかえし、
巣から出てきたヤーゾン・フィーダーを駆除してくれ。

オストフィル ： おお、もう駆除してくれたのか。これで旅人の安全も確保されるだろう。協力に感謝する。
この関門は、本来は黒渦団が警備すべきほどの要所。だが、黒渦団は蛮族対策で手一杯のため、
われらイエロージャケットが警備にあたっている。
だが、われらとて人手が不足しているのでな。周辺の安全確保までは、手が回らないのだ。
今後も、イエロージャケットへの協力を期待してるぞ。

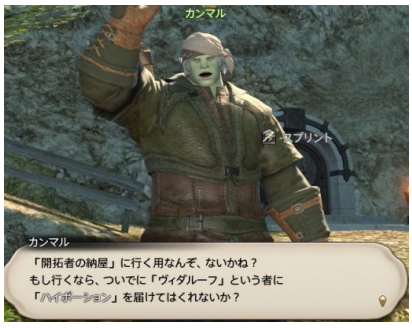
真心仕込みのオレンジ

ビルドレーグ ： 果樹園のラノシアオレンジは、見事だったろ？　だがなぁ、こいつを実らせるのは大変なんだ。
花粉を運ぶ小さな蜜蜂をプークどもが根こそぎ食っちまうもんで、俺たちがひとつ、ひとつ手で受粉させてんのさ。
そうだ、君は冒険者なんだろ？　プークの幼生体……プーク・ハッチリングを5体ほど、狩ってきてくれんか？

ビルドレーグ ： 首尾は上々のようだな。これで、花咲く季節の重労働が、少しは楽になるといいんだが……。
まぁ、それもこれも海賊上がりの連中が、素直にシャキシャキ働いてくれりゃ、いいって話なんだがね。
やれやれ……君に駆除を頼むべきは、プークじゃなくて海賊上がりの連中だったかもな、ハッハッハ。

拳の語らい

カンマル ： 「開拓者の納屋」に行く用なんぞ、ないかね？　もし行くなら、ついでに「ヴィダルーフ」という者に
「ハイポーション」を届けてはくれないか？
あそこは、海賊上がりの農夫たちが、たまり場にしてるせいか、喧嘩が絶えなくてね。
常備薬が、切れそうだという連絡があったのだよ。
あぁ、「ハイポーション」なら、サマーフォード庄にいるよろず屋から買えるぞ。それじゃ、よろしく頼む。

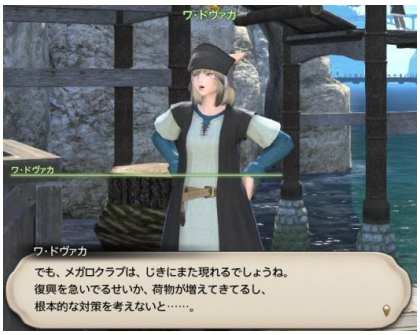


ヴィダルーフ ： 「ハイポーション」が完全に底をついちまった。今、喧嘩が始まったら、ケガ人が出ても手当できないぞ……。
わざわざ調達してくれたのか、ありがとよ！　これで、いつ喧嘩が起きても安心だ。　……そもそも喧嘩がなけりゃ、いい話だがな。
どうにも海賊上がりの連中には、地味な野良作業が、退屈らしくてね。その憂さを、喧嘩で晴らしてるんだろう。
農作業は、確かに、地味で辛い仕事だけど実りを得た時の感動は格別なのに。連中にも、早く気づいてほしいもんだ。

切り裂きクラブ

ワ・ドヴァカ ： ちっ、また切り裂かれちゃった……！　おっと、残念ながら切られたのは、あたしの服じゃないよ？
陰干ししてた気球の球皮（エンベロープ）がメガロクラブに切り裂かれちゃって困ってるの。
奴ら、獲物かなにかと勘違いしてるみたい。
使える気球が減れば、輸送量まで減っちゃうわ。よければ、ワルーい「メガロクラブ」を退治してくれない？
そこら辺にいるのを、5匹ほどバッサリ倒してほしいの！

ワ・ドヴァカ ： やっつけてくれたの？　さすがは冒険者、見事なお手並みね。おかげで助かったわ、ありがとう！
でも、メガロクラブは、じきにまた現れるでしょうね。復興を急いでるせいか、荷物が増えてきてるし、
根本的な対策を考えないと……。



防腐の妙法

カザイ・ブイザイ ： おう、あんた、手ぇ空いてるなら力を貸してくれ！　急ぎの用事ができたんだ！
生ものを運ぶときには、ウォータースプライトの核で冷やしてんだが、今日はいつもより魚が多くて、数が足りない。
魚を腐らせるわけにはいかねぇから、そこらにいる「ウォータースプライト」を狩って、核を3個集めてくれないか？

カザイ・ブイザイ ： 「ウォータースプライトの核」を3個だ！　「ウォータースプライト」を倒せば手に入るぞ。急いでくれよ、頼むぜ！
おう、これだこれだ！　この「ウォータースプライトの核」を、魚の箱に入れてやれば……。
よーしよし、キンキンに冷えてきたぜ。これで、魚を腐らせずに配達できる。お得意さんも、失わずにすんだよ。
このスカイリフトでは、いろんな荷運び業者がしのぎを削ってるからね。ちょっとした失敗が命取りなのさ。

腹減り鳥

カザイ・ブイザイ ： お前さんを見込んで、また頼みがある。最近、デネベール関門へ向かう荷車がバザードに襲われてるんだ。
奴ら、普段は優雅に上空を飛んでるくせに、荷車に肉を積んでる日に限って、荷をかっさらっていきやがる。
だが、この習性を逆手に取れば、奴らを駆除できるはず！
この「ラットの腐肉」を、奴らの巣を中心とした「猛禽の縄張り」に設置して、「バザード」をおびき出し、ぶっ倒してくれ！

カザイ・ブイザイ ： ごくろうさん、首尾よくやってくれたんだな。おかげで、積み荷の安全と、お得意さんの信頼は守られたよ。
バザードは、食料品が目当てらしくてな。うちは食品の輸送が多いから、ほとほと困ってたところよ。
霊災のせいで、奴らのエサも減ってんだろうな。ま、その食い意地が命取りになったわけだがな！